

ボツワナ共和国話題集

ボツワナ基礎情報

【国名・国旗】

- 国民の大多数を占めるツワナ族に由来し「ツワナ族の国」を意味します。
- 国旗の青は空と水を表し、白と黒の線は人種の融合と国章のシマウマを表しています。



ボツワナ国旗

【国土・人口】

- 面積は日本の約 1.5 倍の約 56.7 万km²。首都はハボローネ（南アフリカ共和国の首都プレトリアから約 400km、飛行機で 1 時間、車で約 5 時間の場所に位置する、標高 1,000m の高地）。
- 人口は約 267 万人。



【観光資源】

- ボツワナにはオカバンゴ湿地帯やチョベ国立公園を始めとする自然保護区（ゲーム・リザーブ）が複数存在します。様々な動植物を見ることができる観光スポットとして、それぞれ人気です。特にゾウの生息数は世界一とされています。新型コロナウイルス・パンデミック以前は、年間約6,000人以上（2019年）の日本人観光客が訪れていましたが、2023年は約2,700人でした。
- オカバンゴ湿地帯は、世界最大の内陸デルタとして2014年にユネスコの世界自然遺産に登録されています。湿地帯特有のものを含め、多くの野生動物や鳥類を見ることができるため、英国の王族も訪れるなど、世界的に人気の高い観光地です。
- マカディカディ・パン国立公園には世界最大の塩湖があり、乾期には真っ白な大地が広がります。その幻想的な風景は大変人気があります。

- 英国王室のヘンリー王子とメーガン妃（当時）が婚約前にボツワナを共に訪れ、仲を深めたことが話題になりました。また、婚約指輪の宝石はボツワナで採掘されたものです。

【鉱物資源】

- ボツワナのダイヤモンドは高品質で知られています。2023年の産出額は32.08億ドル、また、産出量は2,509.5万カラットで、いずれも世界第2位です。
- 2019年には1,758カラットのダイヤモンド原石（当時世界史上2番目）が、更に2024年には2,492カラットのダイヤモンド原石（世界史上2番目）が、ボツワナ東部のカロウエ鉱山（カナダのダイヤモンド探鉱会社ルカラ・ダイヤモンドが所有）にて発見されました。

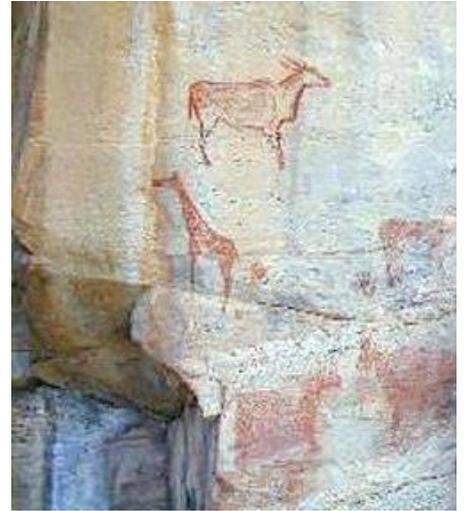


【水資源】

- ツワナ語で水や雨を意味する「プラ」が、ボツワナの貨幣単位となっていることから分かるように、乾燥気候で降雨量が少ないボツワナでは水は非常に貴重です。
- 2015年、南部アフリカ地域は深刻な干ばつから水不足に見舞われ、ボツワナにおいても主要ダム貯水率が低下し、各地で断水措置がとられました。
- 2024年6月、政府は、前年より南部アフリカ一帯で続く深刻な干ばつによる被害がボツワナでも発生していることを受け、2023/2024年を極端な干ばつの年と宣言しました。同年8月には、日本を始めとする開発パートナーに対し干ばつ支援緩和のための支援を要請しました。

【ユネスコ文化遺産：ツォディロの岩絵群】

- 2001年にユネスコ文化遺産に登録された、北西部のツォディロ丘陵に点在する岩絵群です。先住民のサン族が石器時代から描き始め、最終的には19世紀まで描かれ続けられた4,500点に上る岩絵は、「砂漠のルーブル」と呼ばれるほど鮮やかなものと言われています。



【ボツワナの食】

- ボツワナは牛肉が特産で、南アやEUにも輸出しています。EUとは南部アフリカ開発共同体（SADC）を通じてEPAを結び、年間約9,000トンの牛肉を輸出するなど、政府も牛肉の生産拡大を後押ししています。
- 伝統的な肉料理のセスワ（牛肉を長時間煮込み、塩などで簡単に味付けしたもの）や、アフリカ式BBQのブライ等が親しまれています。

【ボツワナのスポーツ】

- ボツワナでは中距離の陸上競技が盛んです。2012年ロンドン五輪で、ナイジェル・アモス選手（当時18歳）が男子800mで銀メダルを獲得し、ボツワナ史上初の五輪メダリストとなりました。アモス選手の1分41秒73という記録は、世界ジュニア新記録（当時）となりました。2021年に行われた東京五輪では、男子4×400mリレーで、ボツワナ史上2番目となる銅メダルを獲得しました。
- 2024年パリ五輪では、レツィレ・テボホ選手（21歳）が、200m走にて19秒46の自己ベストタイムを記録し、ボツワナ初の金メダル及び同競技におけるアフリカ初の金メダルを獲得しました。また、男子4×400mリレーでも銀メダルを受賞しました。
- パラリンピックでは、2004年のアテネ・パラリンピックにボツワナから唯一参加したツォトレゴ・モラマ選手が、女子400mで55秒99というタイムで世界記録を更新し、金メダルを獲得しました。

【著名人：映画になった初代大統領】

- 2016年、セレツェ・カーマ初代ボツワナ大統領と英国人夫人を題材にした英国映画「A United Kingdom」が公開されました。
- カーマ初代大統領は、バングワト族の首長の家に後継者として生まれ、南アの大学を卒業後、オックスフォード大学に留学しました。1974年にロンドンでロイズ銀行に勤務していた白人女性と出会い、結婚します。当時は、白人女性と黒人男性の結婚には社会的な抵抗があり、特にアパルトヘイト時代の南アはこの結婚に強く反対しました。また英国も、カーマ初代大統領がバングワト族後継者としての地位を放棄するまでボツワナへの帰国を認めないとしていたことが映画で描かれています。

日本との関係

【地デジ：国外初の日本方式での完全移行を達成】

- 政府は、様々なコンテンツを送信可能なデータ放送や災害時の緊急警報機能を高く評価し、日本方式（ISDB-T方式）の地上デジタルテレビ放送をアフリカ大陸で初めて採用しました。
- 我が国は、研修、専門家の派遣、機材供与、共同作業部会の開催等の協力を行いました。その結果、2022年、ボツワナは、日本以外の日本方式採用国の中で最初に地デジ完全移行を達成しました。
- 地デジ日本方式の導入の功績により、2013年にマシシ公共政策大臣（当時。現大統領）、2023年にモルワエン大統領府大臣が、我が国から「電波の日」総務大臣表彰を受けました。また、地デジ日本方式の導入を含む日本・ボツワナ間の関係強化の功績により、2016年にマシシ副大統領（当時。現大統領）は旭日大綬章を受章しました。

【教育テレビプロジェクト】

- 2009年、NHKは、政府が進めるボツワナ教育テレビ（BETV）の立ち上げプロジェクトに、NHK関連団体のNHKエデュケーショナル（NHKE）を通じて協力を実施しました。
- 我が国からアドバイザーが3年間派遣されBETVの組織作りから始まり、番組制作、編成計画、機材整備など、放送開始に向け幅広い業務を手がけました。
- 2011年6月にボツワナテレビ（BTV）の2時間の枠を使い放送が開始され、NHKEより購入した「リトルチャロ」や「大科学実験」の他、自主作成した理科番組が放送されました。

【人物交流・文化交流】

- 2008年の大使館開設から2024年9月までに、日本政府が支援する国費留学生制度（大使館推薦及び大学推薦）により、58名のボツワナ人留学生が秋田大学、東北大学、広島大学、早稲田大学、上智大学、大阪大学、京都大学、鳥取大学、九州大学等に送り出されました（研究留学生及び教員研修生）。
- この他に、2024年3月までに「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）」、「SDGグローバルリーダー」及び「資源の絆プログラム」により、累計で29名が日本の大学に送り出されました。
- 大学間協定としては、ボツワナ大学と秋田大学、立命館アジア太平洋大学との間で、学術協力に関する協定を締結しているほか、短期交換留学制度を設けています。2017年に、秋田大学は、ボツワナ国際科学技術大学内に「秋田大学ボツワナ事務所」を開設しました。また、2024年3月に、北海道大学とボツワナ農業天然資源大学との

間で、学術協力に関する協定が締結されました。

- 横浜市都筑区は 2008 年の TICAD IV 関連事業である「一校一国運動」でボツワナについて学んだことを契機として、これまでボツワナとの交流を深めています。2014 年から毎年「都筑・ボツワナ共和国交流児童画展」を開催し、横浜市茅ヶ崎小学校及びハボローネのベン・テマ小学校の児童画を相互に展示しており、2023 年には 10 周年記念事業を実施しました。2024 年、ベン・テマ小学校及び都筑多文化青少年交流プラザは、日・ボツワナの相互理解の促進への功績により、外務大臣表彰を受けました。



【スポーツ交流① 空手】

- ボツワナでは空手が高い人気を集めています。ボツワナにおける空手普及のため、ボツワナ空手協会が熱心に活動しており、日本からは、2009年に草の根文化無償を通し、ボツワナ空手協会に対し空手道場建設計画に約8万7千米ドルを供与しました。2018年には同道場の拡張計画に約8万5千米ドルを供与し、2024年に引渡式を実施しました。同空手協会は、2012年8月に外務大臣表彰を受賞しています。
- 2015年12月、黄川田外務大臣政務官（当時）は、草の根文化無償で建設された空手道場を訪問し、ボツワナ空手協会による空手デモンストレーションを視察しました。

【スポーツ交流② 柔道】

- 2011年、日本政府はボツワナ柔道連盟に対し、草の根文化無償にて柔道着及び柔道マットを供与しました。
- 2013年、柔道専門のJICA青年海外協力隊員・井坪圭佑氏が着任し、ボツワナ柔道連盟に所属して、ハボローネ市内小学校の柔道教室で巡回指導を行っていました。しかし2015年10月、ケープタウン（南ア）で不慮の事故に遭い、逝去（享年23歳）されました。同氏が柔道を教えていたキャヴィン・モホパ選手は、2016年リオ五輪にボツワナ人柔道選手として初めて出場を果たしました。
- 2017年、草の根文化無償「柔道道場建設計画」により建設された柔道道場が完成し、引渡式にはリオ五輪の柔道金メダリストである田知本指導者が出席しました。

【スポーツ交流③ ソフトボール】

- ボツワナではソフトボールが男女ともに盛んです。2018年8月に千葉県で開催された第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会にアフリカ予選を勝ち抜いたボツワナが参加しました。そのボツワナ代表チームの打撃担当アシスタントコーチとして帯同したのが、青年海外協力隊のソフトボール隊員としてボツワナに派遣された日本人でした。結果は残念ながら7戦全てコールド負けでした。
- 2018年、草の根文化無償「ソフトボール球技場及び機材整備計画」によって、日本政府はボツワナ・ソフトボール協会を支援しています。



(了)